

国際高等研究所 研究プロジェクト

「設計哲学－俯瞰的価値理解に基づく人工財の創出と活用による持続可能社会を目指して」

2016年度第1回（通算第7回）研究会プログラム

日 時：2016年 6月 24日（金）13:30～17:30

6月 25日（土） 9:30～12:00

場 所：公益財団法人国際高等研究所

（京都府木津川市木津川台9丁目3番地）

出席予定者：（10人）

研究代表者	梅田 靖	東京大学大学院工学系研究科教授
参加研究者	岩田 一明	大阪大学名誉教授・神戸大学名誉教授
	上須 道徳	大阪大学環境イノベーションデザインセンター特任准教授
	小野里 雅彦	北海道大学大学院情報科学研究科教授
	思 沁夫	大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任准教授
	住村 欣範	大阪大学グローバルコラボレーションセンター准教授
	田中 直	特定非営利活動法人 APEX 代表理事
	服部 高宏	京都大学国際高等教育院教授
	村田 純一	立正大学東京大学名誉教授

RA（リサーチアシスタント）

阿部 朋恒

首都大学東京大学院人文科学研究科博士後期課程・国立民族学博物館特別共同利用研究員

趣旨

今年度は、これまで2年間の本研究プロジェクトの議論をまとめ、書籍化する。今回はその第1回目として、枠組みの検討、書籍のタイトル案、目次案の作成、および、今年度の計画立案を行う。

出席される皆様へのお願い：

幹事団では、これまでの議論のまとめとしての枠組の叩き台として別添資料「途上国に向けた設計倫理の枠組案」を用意しました。研究会当日は、これを叩くことをベースに議論をお願いします。また、議論3では、別添資料に示す価値のレイヤー間の関係(対立と調和)の例をお持ち寄り頂き、議論を進めたいと考えています。そのご準備を頂けたら幸いです。

例えば、ス先生がいつも提示されるモンゴルの例で言えば、

● 自動車：

- 個人：便利
- 地域：環境問題、廃車問題、伝統破壊
- 国：自動車産業が育成できない。中古車を輸入し続けなければいけない

● 鉱山：

- 国: 輸出、外貨獲得、政権維持の方策。一方で、国富流出（外国が資本投入、利益を上げる）
- 地域・遊牧民: 環境破壊、放牧地域、水源が壊された。。一般国民、国土は貧しくなるといったイメージです。途上国問題に限定しません。例えば、小野里先生であれば、企業レイヤーと個人レイヤーの間の対立（コンフリクト）などをお示し頂ければと思います。

6月 24日 (金)

13:30～15:20

議論 1: 背景-なぜ地域間で技術を考えるべきなのか？

話題提供: ス、住村

議論 2: 枠組-途上国に向けた設計倫理

話題提供: 梅田

議論 3: 「価値」（意味づけされているメリット）についての概念整理

話題提供: 未定

15:20～15:40 休憩

15:40～17:30

議論 4: 各レイヤーの価値の例示とレイヤー間の関係（対立と調和）の例示

話題提供: 全員

田中委員のご提案もここで

終了後、懇親会

6月 25日 (土)

9:30～12:00

(11:30～12:00 昼食をとりながら)

議論 5: 議論 2 の枠組の再検討-設計倫理をどう使うのか？

話題提供: 住村

議論 6: 本のタイトルと目次の検討

議論 7: 第 2、3 回目のスケジュールと進め方